

ヒブワクチン接種補助を

向日市の医薬品会社に800万円寄付



久嶋市長に寄付金の目録を手渡す北尾社長(中央)
＝向日市役所

い。死亡したり、後遺症があったりする。ワクチン接種は任意で、必要とされる4回の接種で約3万円かかる。日東薬品工業は「何か社会貢献活動を」と検討していたが、北尾哲郎社長が代表幹事を務める京都経済同友会が、少子化問題に取り組んでいることもあり、ワクチン接種を念頭に寄付を申し出た。向日市は接種補助を検討中で、寄付金を繰

り入れた2010年度一般会計補正予算案を、6月定例市議会に提出する予定。北尾社長は久嶋務市長に目録を手渡した後、「子どもたちに丈夫で元気に育ってほしい」と話した。(矢ヶ村尚幸)

向日市上植野町の医薬品製造販売会社、日東薬品工業は28日、同市に800万円を寄付した。市は同社の意向に沿い、この寄付を基に乳幼児の細菌性髄膜炎を引き起こす「インフルエンザ菌b型(Hib)」のワクチン接種の補助制度を、早ければ7月にも新設する方針。

7月にも制度新設

府健康対策課は「ヒブ」号では「として」。ワクチンの接種補助ヒブによる細菌性髄膜炎は特に、2歳以下の子どもがかかりやす

京都新聞 朝刊

平成22年4月29日

Hibワクチン 接種助成の方針

向日市、府内で初

向日市は、幼い子どもにも重い障害を残すことがある細菌性髄膜炎を予防するインフルエンザ菌b型(Hib)ワクチンの接種費用の一部を助成する方針を固めた。府内の市町村で初めて。5月31日開会の市議会に制度案を提案する方向で検討を始めた。

同市によると、28日、同市にある日東薬品工業からHibワクチンの接種費用として800万円が寄付され、これを財源に助成する方針を固めたという。

同市などによると、細菌性髄膜炎は免疫力の少ない5歳未満の子どもがかかりやすく、国内で年間400〜600人の乳幼児が発症。2〜5%が死亡し、15〜30%に聴覚障害やてんかん、知能障害などの後遺症が残るといふ。

ワクチンは2007年1月に製造販売が承認されたが、任意接種のため、初回接種が生後3〜7カ月の場合、計4回で総額2万8千〜3万6千円程度を保護者が負担することになる。同市は「負担を減らし、多くのお子さんが接種できるようにしたい」としている。

「ヒブワクチン接種に」寄付

薬品会社
向日市へ

乳幼児が細菌性髄膜炎を引き起こす「インフルエンザ菌b型」(Hib)ワクチンの予防接種に役立ててほしいと、医薬品製造販売会社・日東薬品工業(本社・向日市、北尾哲郎社長)が28日、向日市に800万円を寄付した。市は接種費用への助成制度創設を検討しており、その資金にする考え。今のところ府内で、ヒブワクチンの助成制度をもつ自治体はない。

細菌性髄膜炎は生後2か月〜5歳未満で感染率が高く、国内では毎年約600人が発症。死亡したり、後遺症が出たりし、2008年には府内で3人の患者が出ている。

予防接種は年齢に応じて1〜4回必要。しかし、ポリオのように定期接種の対象ではないため、費用はすべて自己負担となり、最大で3万円程度かかることが課題になっている。

北尾社長は「子どもたちにとっては深刻な病気。少しでも罹患する子どもを減

読売新聞 朝刊

平成22年4月29日

朝日新聞 朝刊

平成22年4月29日